



50 自病院で総合窓口での患者対応が可能な言語数 (日本語を除く)

解説	外国人患者受入に関する体制を示す指標です。医学部附属病院,歯学部附属病院ともに中央値が1.00となっておりますが,医学部附属病院で最大値14.00と複数の言語対応が可能な大学病院もあります。 なお,今回平成28年度より新規に調査を行ったため,2年分の数値を提示しております。												
実績	<table><thead><tr><th>年度</th><th>言語数</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成25年度</td><td>0</td></tr><tr><td>平成26年度</td><td>0</td></tr><tr><td>平成27年度</td><td>0</td></tr><tr><td>平成28年度</td><td>4</td></tr><tr><td>平成29年度</td><td>12</td></tr></tbody></table>	年度	言語数	平成25年度	0	平成26年度	0	平成27年度	0	平成28年度	4	平成29年度	12
年度	言語数												
平成25年度	0												
平成26年度	0												
平成27年度	0												
平成28年度	4												
平成29年度	12												
定義	各年6月1日時点での,自病院で総合窓口での患者への対応が可能な言語数(通訳業務委託,ボランティアによる通訳サービスなどを含みます)です。 なお,中国のように北京語,広東語など複数の言語を使用する場合でも,言語数は1(中国語)でカウントしています。												